下野市立南河内中学校

１　学校課題

思考力の育成
　～授業における発問の工夫～

２　研究計画

（１）研究のねらい

これからの社会において、複雑化した諸問題に、主体的にかかわって、解決していく生徒を育てるためには、個々の生徒が自身に必要な思考を認識し、身に付け、その思考を他者とのかかわり合いや実生活の中で応用し、実践できるようになるまで高めなければならない。さらに学ぶ意欲をもった生徒の育成のためには、まず「思考力の育成」が必要なのではないかと考えた。思考力を向上させるためには、授業においてどのような発問をすればよいのかという理由から、「思考のすべ」による発問の工夫に焦点をあて、研究を進めてきた。

（２）計画

月	研　修　会	研　修　内　容
４月 ５月	・研究推進委員会 ・全体研修会 ・教科部会	【学校課題共有】 ・本研究計画の立案・検討 ・学校課題のとらえ方の共通理解 ・研究の方法・進め方の確認・共通理解 ・各教科、領域で研究計画の話合い
６月	・全体研修会（職員研修）	【Ｓ＆Ｕコラボ事業】 講師　原田　浩司　先生 講話　「思考力の育成～通常の学級における特別支援教育～」
７月	・生徒による授業評価	・生徒アンケートによる授業評価
８月	・研究推進委員会 ・全体研修会 ・小中連携研修（学区） ・教科部会 ・個人研究	・学校課題と各教科の研究課題の方向性の検証 ・全国，とちぎっ子学力学習状況調査結果の分析 ・小中連携の理解と推進
９月	・生徒評価の分析 ・研究授業（職員研修） ・全体研修会	・生徒による授業評価集計結果の考察 【実践研究】 ・保健体育科２年研究授業・授業研究会 ・数学科３年研究授業・授業研究会 ・「思考のすべ」による発問の工夫について、各教科の発問例発表
１２月	・全体研修会（職員研修）	【Ｓ＆Ｕコラボ事業】 講師　牧野　智彦　先生 ・数学科１年研究授業・授業研究会
２月 ３月	・研究推進委員会	・成果と課題の確認 ・次年度の計画立案に向けた話合い

３　研究内容

（１）全体研修会による研究

・「思考力の育成」につながる発問について、「思考のすべ」に関する資料をもとに研究する。

・６月１５日（水）Ｓ＆Ｕコラボ事業における講話会

講師　原田　浩司　先生

講話　「思考力の育成～通常の学級における特別支援教育～」

〈今後の授業に生かしていきたいこと〉

・授業中集中力を欠いたり、やる気がなかったりして考えることを諦めてしまう生徒について、その生徒が興味をもてるような視覚教材を用いた授業やグループでの授業など工夫することが大切であるということ。

・発達障害や個性を、生活や授業の中で平らにする必要はないこと。生徒同士の助け合いや思いの共有化で、考える力も伸ばしていくということ。

（２）各教科による研究

・各教科における「思考のすべ」による発問例のまとめ

・各教科ならではの「思考力の育成」のための授業実践研究

・研究授業による「思考のすべ」の実践検証

（３）授業研究会のよる研究

①９月１４日（水）　授業研究会

・２年保健体育科「応急手当」

・３年数学科「２次方程式」

〈今後の授業に生かしていきたいこと〉

・指示を明確にすることは、生徒の動きや授業の流れに大きく関わる事だということ。

・視覚に訴える教材により理解を促す効果があること。また、１つの課題に対してグループで考えることで、多様な考えや気付きがあり活動が充実するということ。

②１２月１４日（水）　授業研究会　Ｓ＆Ｕコラボ事業の活用

・１年数学科「平面図形」

〈今後の授業に生かしていきたいこと〉

・思考を深める時に、じっくり観察させたり、方針をもたせる（見通し）ことが大切だということ。

・「よりよくするためには、どうしたらよいか」と考えることが思考力の育成につながっていた。「悩む」と「考える」は違うということ。

４　本年度の成果と課題

（１）研究の成果

・多様な思考を引き出すヒントとして「思考のすべ」は有効であった。また、「思考のすべ」を考えることは、生徒の立場に立って発問することにもつながった。

・グループで思考を深める活動に利用する目的で「まなボード」というホワイトボードを購入した。研究授業だけでなく、多くの教科でも日常的に活用し、話合い活動の工夫改善につながった。

・「思考のすべ」について、各教科で検討を重ねることで、教師一人一人の実践的な研究となった。

（２）研究の課題

・教科の特性により、「思考のすべ」を生かすことが難しい教科もあった。

・「思考のすべ」を詳しく学ぶ機会が少なかった。専門的な講話を希望する声が多く上がった。

・本校の生徒は、「思考力を育成」する前に、「基本的な学習の習慣」が身に付いていない生徒が多いという実態があり、今後の課題となっている。